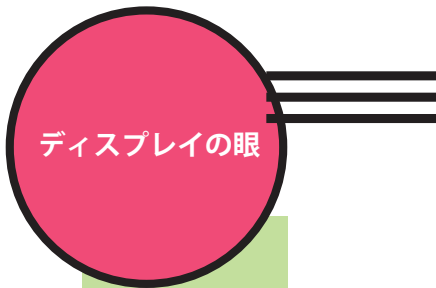


## ディスプレイ憲章

ディスプレイは  
主題を空間に演出する伝達技術である  
われわれは  
企業間の相互理解に立ち  
業界全体の繁栄をはかると共に  
創造に徹し  
技術を磨き  
ディスプレイを通じて  
社会に貢献する

## CONTENTS

ディスプレイの眼 生き方・働き方の「選択」	・ ・ 1
2013 東デ協 新春セミナー ／山本寛斎氏講演	・ ・ 2
Premium meeting 2013 「Professional Woman 100」	・ ・ 4
第 37 回親善ボーリング大会	・ ・ 6
Next HERO わが社の新人紹介	・ ・ 8
東京デザイン巡り アーケード 23 区北部・東部編	・ ・ 10
ディスプレイ塾 ・「銀行取引セミナー」	・ ・ 12
新入社員研修会	・ ・ 13
安全研究会活動報告	・ ・ 14
新春号お年玉企画 当選者	・ ・ 14
新規加入組員紹介	・ ・ 15
編集後記	・ ・ 15



## 生き方・働き方の「選択」

2月27日、銀座にて組員交流特別企画「Professional Woman 100」が開催され(本誌4～5ページ参照)、ディスプレイ業界で働く多くの女性に参加して頂くことが出来ました。

この企画は、ある情熱に溢れた若い女性の発案から始まりました。

このような女性が中心となった催しが開かれたことは、この業界で活躍する女性の存在感が大きくなってきたことの表れかもしれません。

女性が働くことが当たり前となった今、この業界で多くの女性が自らの「仕事」と真摯に向き合い、家庭との両立を模索しています。

これはひとえに、諸先輩方が女性の生き方・働き方の「選択」を可能にしてくれたからに他なりません。

一方で、男性は生き方・働き方を「選択」できているのか疑問に思うことがあります。

ディスプレイ業界では、仕事の性質上、長時間労働や深夜残業も多く、休みも不規則になりがちです。

そのため、気付いたら仕事中心の生き方・働き方を「選択」していたという男性も多いのではないのでしょうか？

女性にはいくつもの選択肢があるのに、男性にはそれが無いと言う人もいます。

女性は、これまでの世代が家庭以外に社会で働くことも当たり前にしてきたおかげで、人生で様々な「選択」をすることが可能となりました。

それに対して男性は、様々な「選択」、特に家庭のために多くのエネルギーや時間を費やすという「選択」が当たり前になってはいけません。

もっと家庭のために多くのエネルギーや時間を費やしたいと強く望んでいる男性も多く存在するでしょう。しかし、男性が育児に積極的に参加したり、一時期でも専業主夫になる「選択」をするには様々な壁があるように思います。

では、男性が家庭のために多くのエネルギーや時間を費やすという「選択」を当たり前のものにするには不可能なのでしょうか？

現在、未婚化と少子化の影響により個人の介護負担は更に大きくなると言われています。

以前は女性が男性と同じように働くという「選択」は、とても困難なことだったかもしれませんが、高度経済成長期の労働力不足が女性の社会進出を後押ししたように、高齢化社会が男性にこれまでと違った働き方を促していくことでしょう。

そして、「将来」多くの男性が変化を望めば、今と違った「選択」も当たり前になり、それに合わせて生き方・働き方の幅も広がることと思います。

“将来”ではなく、“現在”その変化を起こしてみても良いのではないのでしょうか？

広報委員 前田 奈緒子／(株)マエダ



表紙デザイン  
羽田健二／株式会社フジヤ  
集まることによる団結力を、東京の新たな象徴であるスカイツリーをドット絵で表現しました。